

# ハイチにおける大地震に係る 自衛隊派遣について

防 衛 省

22年1月18日

# 目 次

- 地震の発生について . . . . . 1
- 被害状況について . . . . . 2
- 防衛省・自衛隊の対応について . . . 3
- C-130Hの運用イメージ . . . . . 4

# 地震の発生について



- ◇ 時間：1月13日06：53  
※ 現地時間では12日16：53
- ◇ 震源地：首都ポルトープランス郊外約15km、深さ：10km
- ◇ 規模：M7.0
- ◇ 余震：M5.0以上の余震が断続的に発生

## 【ハイチのデータ】

- ◇人口：961万人
- ◇民族：アフリカ系（約9割）、その他混血
- ◇言語：フランス語、クレオール語（共に公用語）  
（出展：外務省HPからの抜粋）



## 被害状況について

ハイチ共和国の被害状況	<p>◇ 詳細は依然不明であるが、報道等によれば、被害状況は以下のとおり。 (17日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 死者数及び負傷者数：5万人以上が死亡、25万人が負傷。</li><li>・ 倒壊家屋等：30万人前後が家屋を喪失。被災地域全体の住民数は350万人、被災地域中心部では建物の8～9割が損壊。インフラは壊滅的な打撃。</li></ul>
在留邦人の被害状況	<p>◇ 邦人22名の安否は確認済み(17日現在)</p>
治安状況	<p>◇ 被災者の中で不満が高まっており、治安は今後、かなり厳しくなると見込まれる。</p> <p>◇ 他方、現地に入った防衛省の要員からの連絡によると、現地の16日の状況では、ポルトープランス市内で治安上の大きな事象は確認できていない。市内は、国連ハイチ・ミッションの部隊が、装輪装甲車により巡回を実施している。</p>
その他	<p>◇ 震災後から、米国は、ハイチで生活する米国民の米本土への緊急退避を実施しており、飛行場では、米政府が緊急退避のためにチャーターした航空機が頻繁に離着陸している状況。</p>

## 防衛省・自衛隊の対応について

日時（日本時間）	内 容
1月14日（木）	外務省、JICAの要員とともに、防衛省からも要員2名（事務官1名、自衛官1名）を現地へ調査のため派遣
1月15日（金）	外務大臣から国際緊急援助活動の実施について協議
	防衛大臣から準備指示、準備命令を発出
	昨年12月27日より訓練のため米国本土に派遣されていたC-130H輸送機の帰国を中止し、ホームステッド米空軍基地（フロリダ州）へ回航
1月16日（土）	調査要員、ハイチ共和国へ入国。事後、ポルトー・プランス飛行場の状況確認・関係機関等との調整開始
1月17日（日）	○ 飛行場の状況等の確認を行い、輸送が可能であると判断されたため、防衛大臣より、C-130H輸送機による国際緊急援助隊医療チームの輸送に関する行動命令を発出
1月18日（月）	○ 外務大臣より、ハイチからホームステッド米空軍基地に戻るC-130H輸送機を用いて、在ハイチ被災民の米国への緊急退避の支援を行うこと等について協議があった。これを受けて、防衛大臣が、当該緊急退避の支援等を行うことについて、行動命令を発出

# C-130H輸送機の運用イメージ

(現地時間)



トラビス

1月15日

マイアミ  
(ホームステッド空軍基地)

1月17日

国際緊急援助隊医療チーム  
の輸送

片道:3時間

ハイチ  
(ポルト・プランス飛行場)

ホームステッド基地への帰還の便に、緊急退避を行う米国民等を同乗